

# ロジスリドン in 神楽坂 まちあるき MAP



**新内横丁**  
新内浄瑠璃の人間国宝、「鶴賀若狭塚」氏の家があり、自身で新内横丁の小さな看板を掲出。神楽坂には、このほか亀井忠雄（能楽）、山勢松韻（箏曲）、東音宮田哲男（長唄）、鳥羽屋里長（歌舞伎長唄）など、ゆかりのある人間国宝がいる。また、矢来町には国立能楽堂がある。

**朝日坂（横寺町）**  
神楽坂 6 丁目から南に向かい横寺町に至る坂。島村抱月や松井須磨子等が『芸術倶楽部』を創立した場所。尾崎紅葉が 37 才で死ぬまでの 3 年間を住んだ鳥居家がある。沿道にはお寺が多く立地し、地名も「横寺町」となっている。

**地藏坂**  
毘沙門天の少し先を南へ光照寺方向に登る坂。光照寺の子安地藏が信仰を集めたこと、光照寺境内に住む狸が地藏に化けて、夜な夜な坂を通る人を脅かしたということから地藏坂と言われるようになった。また、菓を商う店が多かったことから別名『菓店（わらだな）』横丁と言う。

**袖摺坂**  
大久保通りから筆筒町の方に西に登る狭い階段の坂。狭いのですれちがうときに互いの袖が触れるほどだったということ。

**神楽坂通り**  
家光の頃、時の大老酒井忠勝の屋敷を坂上の矢来町（東西線神楽坂駅南側一帯）に拝領し、牛込御門と大老の屋敷を繋ぐために整備された。家光が忠勝の屋敷を訪ねることもあり御成道とも言われた。傾斜地にまっすぐに整備されたため、元はもっと急な坂で階段になっていたこともあったが、何回か削られて現在の傾斜となっているとのこと。毎年 7 月末には、神楽坂祭が開催され、神楽坂通りは阿波踊りの会場となる。牛込御門を建設した阿波守に由来すると言われていた。また、秋のまちの文化祭「まち飛びフェスタ」では、近隣の大日本印刷の協力により 700m の坂にロール紙を敷いて坂にお絵かきというイベントが行われている。この坂は、午前と午後で一方通行が変わる。田中角栄が通った料亭があり、朝は国会方向、午後は目白方向の一方通行になったとの都市伝説がある。

**善国寺（毘沙門天）**  
江戸中期の寛政 4（1792）年に移転してきた日蓮宗、池上本門寺の末寺。「毘沙門さま」と呼ばれる。毘沙門天像は初代住職・自覚聖人が二条閑白昭実公より贈られ、文禄 4 年（1595）徳川家康公創建以来安置され、区の文化財に指定されている。昭和初頭に始められた「新宿山の手七福神」に指定されている。毘沙門天の生まれは寅の年、寅の月、寅の日、寅の刻といわれ、その化身である寅の石像（江戸時代の作）一対が境内に向かい合って鎮座している。東京では縁日に夜店ができるようになったのは明治 20 年頃で、善国寺が発祥の地とされ、寅毘沙の縁日は有名。境内にある毘沙門天（寅の日）と出世稻荷（午の日）の 2 つの縁日で賑わい、年に 4 回寅の日に本尊の毘沙門天像（区文化財）が開帳（一般公開）されている。神楽坂の中心的な存在で、山門の整備には故田中角栄氏や故小佐野賢治氏の名もある。

**光照寺**  
旧牛込城本丸跡地にあり、牛込氏が家光によって移封された後、1645 年に神田から移転してきた。羽後国（秋田、山形地方）松山藩主酒井家の歴代藩主一族の墓、諸国旅人供養碑（1825 年）などがある。酒井家は明治維新後のキリスト教に改宗しており、墓には寂寥感が漂っている。

**大手門通り（毘沙門横丁）**  
中世に築かれた牛込城の大手門（正門）に通じていた。明治時代には「松が枝」という神楽坂で一番大きな料亭ができ、昭和時代には大物政治家の出入りも頻繁だった。この通りの枝道の突き当たりに見える擁壁は牛込城本丸の土塁の跡であり、今でも湧き水がしみ出している。

**赤城神社**  
言い伝えによると、正安 2 年（1300）上野野勢多郡宮城村三夜沢の赤城神社の分霊を、早稲田鶴巻町に移して、寛政元年（1460）太田道灌がこれを牛込に移し、さらに弘治元年（1555）牛込氏が現在地に移した。江戸幕府は、江戸大社に列して牛込の総鎮守とし、明治 6 年、郷社に列した。平成 22 年に建築家隈健吾氏監修の社殿に改築され、内装・家具はオークビレッジ代表稲本正氏が担当した。

**寺内公園・アインスター**  
大久保通り沿いに建設された超高層マンションアインスター、建設にあたっては地元とかなりバトルがあった。提供公園「寺内公園」については、地元の建築家等が設計し、廃止された路地を感じることができる設えにされている。

**兵庫横丁**  
神楽坂の代表的な石畳の路地で、元は 3 尺程度の幅。料亭のほか、著名作家が逗留して執筆活動を行うことから、「本書き旅館」として知られる「和可菜」などがある。「兵庫」は兵器庫の意味で、牛込城の兵器庫があったからという説もある。本書き旅館和可菜は、1954 年創業の老舗和風旅館。脚本家や映画監督、作家や演出家などが執筆や打ち合わせ、構想を練る場として映画やテレビ業界関係者を中心に「本書き旅館」として愛されてきた。内田吐夢、深作欣二、野坂昭如、伊集院静、山田洋次等多くの人が利用している。旅館は現在廃業し、隈研吾氏により新たな役割に向けて改修が行われている。

**酔石横丁**  
兵庫横丁の一部か？突当りには東京理科大学の森戸記念館があり、地域活動の場所として開放されている。元は 2 軒の料亭であった。また、この路地にある「伊勢藤」は、先代の店主が厳しく、酔っ払いの入店お断り、提供は 3 杯まで等のルールがあった。

**若宮八幡**  
源頼朝が東北の奥州征伐の折この地で下馬し祈願したとされ、奥州平定後、この地に鎌倉の鶴岡八幡宮の御神体を勧請した。仁徳天皇、応神天皇を祭神とする由緒ある社で、かつては周辺の高台すべてを境内としていた。

**熱海湯階段**  
石階段と沿道の建物が調和している。中程にある鳥茶屋別亭は、うどんすきの店で、屋は親子丼が人気。本店は毘沙門天の向かいにあったが、今は別館のみが残る。

**本多横丁**  
この横丁の東側にあった徳川家家老「本多対馬守」屋敷に由来する。一時「すずらん通り」と呼ばれた。南側の入口近くにあった饅屋「たつみや」はジョンレン・オノヨーコ夫妻が立ち寄った店として有名だった。

**小栗横丁**  
小栗という姓の武家屋敷が、通りの両端にあったことに由来。かつては片側（北側）に幅一尺ほどの小川が流れており、湧水が豊かであった。通りの中程に銭湯・熱海湯があることから「熱海湯通り」とも呼ばれる。

**築土八幡神社**  
管領上杉氏の皆で豊前宇佐八幡宮の土を取り寄せて基礎を築いたことから築土という地名になったとのこと。境内には、1664 年の銘がある猿の庚申塔（区文化財）、「キンタロウ」「うらしまたろう」「はなさかじい」などの小学唱歌で知られる作曲家田村虎蔵の顕彰碑がある。この鳥居は、常陸下館城主であった黒田直邦の寄進による区内最古の鳥居である。

**三年坂**  
本多横丁を含み、築土八幡神社へ至る緩やかな坂。堀部安兵衛が高田馬場の決闘に向かった際、ここを駆け抜けたとも言われる。由来は、寺や墓地に囲まれた静寂な場所ですまづくと三年のうちに死ぬ、死なない為には三度土を舐めよと言われた俗信による。

**芸者新道**  
明治時代にできた道で、以前は「ロクハチ」（宴席の始まる夜の 6 時と 8 時のこと）ともなると、お座敷に出る御姐さん達が一刻を争って近道に利用した。この通りの東端は傾斜が急になっており、これがかつての神楽坂通りとほぼ同じ傾斜とのこと。

**かくれんぼ横丁**  
石畳や黒塀、和の建築、最も「神楽坂らしい」雰囲気を保っている路地のひとつ。元々名称が無かったものを、昭和期に勝手につけたら、地元の長老に怒られたという話もある。この中で火事があり 3〜4 軒焼失。その跡地に建った 5 階建の飲食店ビルが、景観を壊していると地区計画の発端になる。

**飯田濠跡**  
神田川に繋がる壕で、この地で掘留となった隅田川から神田川を遡ってきた舟運の荷上場であった。この壕の千代田区側の飯田橋駅は「神楽河岸」と言う町名で、新宿区側の町名は「湯場町」と言う。また、湯場町から神楽坂通りに併行して武蔵野台地上に登る通りは「軽子坂」と言う。「軽子」とは、荷揚げ人足のこと。この軽子坂は鎌倉時代に武蔵国府中と下総国府台の両国府をむすぶ道として整備され、江戸城が築かれる前は坂上にあった「行元寺」の参詣道だった。

路地協  
コース  
粹まち  
コース